

## 1 日本社会とその資源配分についての総合調査の必要性

更生保護、福祉、医療及び社会的な能力構築の観点から、社会的、経済的、人的資源を適切に割り振るための基礎調査が必要。

一億総中流と言われた時代からその社会経済環境が大きく変化し、新たな不平等・格差の発生やコミュニティの崩壊が指摘されている中で、従来社会福祉が対象としてきた貧困、身体障害等の分野にとどまらない、いわば社会からはじき出されてしまった者に対する社会的援護の整備は無視できない課題となっている。そうすると、限られた社会資源をいかに配分するかが重要となるが、これまで、更生保護はその配分先として十分認識されてこなかったのではないかと。福祉と比べた場合の予算面での不遇は顕著であるし、民間協力、ボランティアの活用体制についても十分とは言い難い。よって、それら社会資源の適切な分配のための基礎調査を行うことが問題解決の糸口となるのではないかと。

## 2 少年に対する更生保護体制の整備

少年の保護育成を社会全体で担うための新たな制度整備が必要。

少年の保護育成において、従来家庭に期待されていた機能を果たせない家庭が増えており、少年に対する更生保護も、従来の枠組みのままでは対応できなくなっているのではないかと。社会内に家庭に代わる受け皿を用意して、家庭が少年の更生保護に適していない場合の選択肢を増やす必要がある。